

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

読書の楽しみや効用について、私はこれまでも繰り返し語ってきました。

いつの時代も、読書は素晴らしいものです。思考力を伸ばし、想像力を豊かにし、苦しいときも前進する力をくれる。自己を形成し、人生を豊かにするのに欠かせないのが読書です。その価値はずっと変わらないのですが、あえて「いまこそ」と言いたいと思います。

「本を読まなくなった」とは**X**いぶん前から言われていることです。もう**X**にタコができていてという人もいます。

それで**X**が痛いというならまだいいですが、「それがどうかしましたか？」と聞き直っている人があまりにも多い印象です。

先日、恐ろしいデータを目にしました。「読書時間ゼロ」の大学生が過半数を超えた、というものです(第53回全国大学生生活協同組合連合会による学生生活実態調査)。

53・1%が1日の読書時間を「ゼロ分」と回答)。大学で教鞭をとっている者としてうすうすわかってい

たことですが、数字を見るとやはり衝撃でした。理系の学生が本ではなく論文を読んでいて、実験や計算に多くの時間を使っているというのならまだ理解できますが、文系の学生も本を読まないというのですから驚きです。では実際、本を読まずに、何をしているのでしょうか？

読書をしていないとはいっても、文字を読んでいないわけではありません。「1」、大量に読んでいます。その多くはインターネットだったり、SNSだったりするわけです。

「本を読まなくても、ネットでいいじゃん」と言う人はいるかもしれません。

「すべてネットの中にあるではないか」と言われれば、まあ、その通りです。毎日膨大な量の情報が追加されているネット上には、最近のニュースだけでなく古今東西のあらゆる物語や解釈や反応が含まれています。ネットの「青空文庫」では、著作権の切れた作品を無料で読むこともできます。

ですから、わざわざ本を読まなくてもネットでいいじゃないかという意見も見当違いなものではありません。

【2】、ネットで読むことと読書には重大な違いがあります。それは「向かい方」です。

ネットで何か読もうというときは、そこにあるコンテンツ*にじっくり向き合うというより、パッパッと短時間で次へいこうとします。より面白そうなもの、アイキャッチ的なものへ視線が流れますね。ネット上には大量の情報とともに気になるキャッチコピーや画像があふれています。それで、ますます一つのコンテンツに向き合う時間は短くなってしまふ。

最近音楽もネットを介して聴くことが多くなっていますが、ネットでの「向かい方」ではイントロを聴いていることができません。我慢できなくて次の曲を探しはじめてしまいます。【3】、いきなりサビから入るような曲のつくり方をしているという話を、あるアーティストの方から聞きました。

現代人の集中力が低下していることを示す研究もあります。2015年にマイクロソフトが発表したところによると、現代人のアテンション・スパン(一つのことに集中できる時間)はたった8秒。2000年には12秒だったものが4秒も縮み、いまや金魚の9秒より短いと言います。

これは間違いなくインターネットの影響*でしょう。とくにスマホが普及*して、スマートフォンで常にいろいろな情報にアクセスしたり、SNSで常に短いやりとりをしたりするようになったことで、ある意味で「適応」した結果です。

このようにネット上の情報を読むのと、読書とは行違として全然違います。

ネットで文章を読むとき、私たちは「読者」ではありません。「消費者」なのです。こちらが主導権を握*っていて、より面白いものを選ぶ。「これはない」「つまらない」とどんどん切り捨て、「こっちは面白かった」と消費していく感じ*です。

消費しているだけでは、積み重ねができていく。せわしく情報にアクセスしているわりに、どこかフワフワとして何も身につけていない。そのときは「へえ」と思ったけれど、すぐに忘れてしまいます。浅い情報は常にくっつか持っているかもしれませんが、「人生が深くなる」ことはありません。

これは情報の内容やツールの問題というより、「構え」の問題です。

著者をリスペクトして「さあこの本を読もう」というときは、じっくり腰を据えて話を聞くような構えになります。著者と二人きりで四畳半の部屋にこもり、延々と話を聞くようなものです。ちよつと退屈な場面があっても簡単に逃げるわけにはいきません。辛抱強く話を聞き続けます。

相手が天才的な作家だと、「早く続きが聞きたい」と言つて寝る間も惜しんで読書をすることもあるでしょう。しかしドストエフスキーと二人きりになって3か月も話を聞かされ続けたりしたら、大概の人は逃げ出したくなります。(やつてみると最高なのですが)。実際、みんな逃げだしつつあるわけです。

逃げ出さずに最後まで話を聞くとうなるか。それは「体験」としてしっかりと刻み込まれます。読書は「体験」なのです。実際、読書で登場人物に感情移入しているときの脳は、体験しているときの脳と近い動きをしているという話もあります。

体験は人格形成に影響します。あなたもきつと「いまの自分をつくっているのは、こういう体験だ」と思うような体験があるでしょう。

辛く悲しい体験も、それがあつたからこそ人の気持ちはわかるようになり、それを乗り越えたことで強さや自信になったりします。大きな病気になるったり命の尊さを感じる出来事があれば、いまこの瞬間を大事に思えるようになるなど、人格に変化をもたらします。

自分一人の体験には限界がありますが、読書で疑似体験をすることもできます。

読書によって人生観、人間観を深め、想像力を豊かにし、人格を大きくしていくことができます。

読書よりも実際の体験が大事だと言う人もいます。実際に体験することが大事なのはその通りです。でも、私は読書と体験は矛盾しないと考えています。本を読むことで、「これこれを体験してみたい」というモチベーションになることはありますし、それ以上に、言葉にできなかった自分の体験の意味に気づくことができます。

実際の体験を何十倍にも生かすことができるようになるのです。

(齋藤孝『読書する人だけがたどり着ける場所』より)

*イントロ——曲の始まりの部分。前奏。

*サビ——音楽の最も盛り上がるどころ。

*ツール——道具。

*リスベクト——敬意を持つ。

*ドストエフスキー——ロシアの作家。

*モチベーション——しげき刺激、やる気。

【注】

*教鞭をとる——教師になって学生、生徒に教える。

*コンテンツ——中身。

*アイキャッチ——画像や映像で見る人の注意をひきつけ

る。

問一——線部A「あえて「いまこそ」と言いたいと思います」とあるが、なぜ「いまこそ」なのか。大学で学生を教えている筆者の考える理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 理系の学生に比べて、読書をしない学生数が増えることで文系の学生の学力が低下しているから。

イ 過半数を超える学生が一日の読書時間がゼロで、文系の学生でも読書をしない学生が増えているから。

ウ 心配したとおり過半数を超える学生が読書をしなくなるという自分の予感がいままさに的中しているから。

エ 「本を読まなくなった」とさんざん言われ続けてきたので、読書をしないことが当たり前になっているから。

問二 空欄 X に共通して入ることを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 頭 イ 耳 ウ 胸 エ 足

問三 「1」 「3」 にあてはまることばを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ そこで ウ むしろ

問四 ——線部B「ある意味で「適応」した結果です」について、後の問い(1)・(2)に答えなさい。

(1) なぜ、人間の集中力が金魚の9秒よりも落ちたのか。理由を説明しなさい。

(2) 筆者は人間が金魚の9秒よりも集中力が落ちたことを「適応」という言葉で表している。そこにはどのような意図があるのか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 疑問 イ 共感 ウ 賞賛 エ 皮肉

問五 ——線部C「実際、みんな逃げだしつつあるわけです」とは、どのような状況から逃げるのか。二十五字以内で、説明しなさい。

問六 — 線部 D 「言葉にできなかった自分の体験の意味に気づくことができます」とあるが、読書をすると言葉にできなかった自分の体験の意味に気づけるとは、どういうことか。その説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分では気づけなかった過去の体験の持つ意味を、読書することによって考えられる十分な時間が生まれてくること。

イ 言葉の専門家である作家の書く物語の中から、自分の生き方や人生を考えることができ、それを人に説明する方法を学べること。

ウ 現実には自分が体験できないようなことも、本の中の主人公を通して疑似体験できるので、自分の世界が広がり、言葉も豊富になること。

エ 自分が体験したことと重なるような内容を本の中に見つけたとき、そこに書かれている言葉によって、自分の体験を深く理解できること。

問七 この文章における「読書」と「消費」とはどのようなことか。その違いを説明しなさい。